

第9次豊田市総合計画への各種意見・提案

1 「（仮）ミライ構想のめざす姿」について

項目：「つながり」を通じ、多様な価値や可能性を創出するまち

意見・提案	理由・背景
1. 「認め合い・気づき・学び合い」を「認め合い・気づき合い・学び合い」としてはどうか。	単なる「気づき」ではなく、お互いに気づき合って構想を進めることでよい提案や行動ができるため。

2 「（仮）ミライ構想のまちづくりの基本的な考え方」について

項目：発想の転換

意見・提案	理由・背景
2. 「あるものに新たな価値を創出する」を追加してはどうか。	歴史を振り返り、小さな出来事の1つでもよいのでそれを大きく広めていくことで、価値が生まれてくると思う。また、既存のインフラをより有効活用することでも新しい価値は生まれるため。 例えば、①駅を「乗降する場所」としてだけではなく、人々が集い、楽しむところとする。②公園の名前を地域の特性や歴史から紐解き、ワクワクする名前とする。または、人々を惹きつけるいわれなど創造しておもしろく遊べる公園とする。③市道に健康づくりの道といった価値を付与し、楽しめる場とすることなど。
3. 風通しがよく、温かみのある心の通い合うまちづくりをお願いしたい。	昨今は、SNSを用いた要件のみのやりとりが多く、会話による心の通いが減少している。自治区の住民同士が気兼ねなく挨拶、会話ができることがまちづくりのベースになると考えるため。

3 「都市構造」について

項目：都市構造の実現に向けた方針

意見・提案	理由・背景
4. ハード面でなくソフト面を意識したまちづくりが必要である。個々人の利益でなく、全体の利益を最大化するにはどうしたらよいかを考えることが鍵になると考える。	外国の場合、「道（ハード）を造って街をつくる」だが、道（ハード）が既にある中でどのようなまちを作るかが重要であるため。
5. 拠点への更なる機能集積による地域の活力と魅力向上とあるが、更なる機能集積は必要なのか。	DXやネットが進化しているため。
6. 「（仮）えきちか居住誘導エリアを設定」ではなく「駅を拠点とする暮らし機能の向上」ではどうか。	駅を拠点としたまちづくりは必ず発展するため。また、駅周辺に喫茶店などを誘致または創出し、楽しい場づくりを進めることが必要であると思うため。
7. 「安心・安全に住み続けることのできるまち」という考え方を加えてもよいのでは。	今の豊田市は、防災・防犯の取組、子育てのしやすさ、老後の暮らしやすさなど暮らしていく上での必要な支援がなかなかみえてこないため。
8. 「インフラを整備し、災害に強いまちづくり」という考え方を加えてもよいのでは。	猿投台地区の矢作川河畔沿いは常に河川の氾濫リスクにさらされているため。
9. 少子高齢化を踏まえたまちづくりを進めてほしい。	少子高齢化を踏まえたまちづくりを進めることで、将来の空き家・耕作放棄地対策、老々介護問題に対応できると思うため。
10. 高齢者にとって「やさしいまち」にする視点は盛り込んでほしい。例えば、身体的に買い物が困難である高齢者に対して、ドローンやバスを活用した運送支援、移動支援体制を構築することが考えられる。	高齢者は都市構造の変化に柔軟に対応しにくい面があるため。
11. 各拠点を鉄道で結ぶとあるが、鉄道・バスにアクセスしづらい、またはできない高齢者への新しい交通サービスの構築も視野に入れる必要があるのでは。例えば、各自治区に自由に使えるバスを提供することなどが考えられる。	鉄道、バスにアクセスしづらい、またはできない高齢者は一定数存在するため。また、車中心の都市構造になっており、そもそも、鉄道、バスの本数が少ないため。（特に、市中心部から南北の移動は容易だが、東西の移動が困難）